

## 村上選手の56本塁打

# 王さん超えた22歳の快拳

「世界のホームラン王」をしのぐ22歳の快拳である。

プロ野球・ヤクルトの村上宗隆選手が今季最終戦で56号本塁打を放ち、元巨人の王貞治さんが1964年にマークしたシーズン55本を上回った。

シーズン最多本塁打記録は、2013年に当時ヤクルトのウラディミール・バレンティンさんが打ち立てた60本だ。村上選手はそれに次ぐ歴代単独2位となる。

入団5年目の今季は本塁打王に加え、首位打者、打点王のタイトルも獲得し、史上8人目の3冠王に輝いた。82年に当時ロッテの落合博満さんが28歳で達成した最年少記録も塗り替えた。

高校時代、全国的な知名度は高くはなかった。甲子園に出場したのは熊本・九州学院高1年生の夏だけだ。だが、地元で「肥後のベーブ・ルース」と呼ばれるほど打撃力は群を抜いていた。

実力がプロの目に留まり、ドラフト会議では3球団競合の末、ヤクルトに1位で指名された。

背番号「55」は、王さんの本塁打記録や日米で活躍した松井秀喜さんの背番号にあやかった。55本を超えることは目標だった。

近年はアップバースイックで打球の角度を上げ、飛距離を伸ばす打者が増えた。「フライボール革命」と呼ばれる。しかし、村上選手は水平気味に振り抜くレベルスイン

クで、全ての方向に強い打球を飛ばす「広角打法」が特徴だ。

本来は中距離打者向けのフォームで、これだけの本塁打を放つのは驚異的だ。下半身をうまく使ったスイングにパワーが加わり、長打力に磨きがかかった。

データ分析や投手の分業制が進む中、王さんは「本塁打を量産するのは我々の時代より難しい」と高く評価する。当時とは投手の球速や変化球の多彩さ、球場の広さも異なる。

今季は5打席連続本塁打を放ち、プロ野球新記録を樹立した。通算本塁打は160本に達し、将来的には王さんが22年間で到達した世界記録の868本への挑戦が期待される。

活躍は米国でも話題になっていく。いつか大リーグに舞台を移す時が来ても、時代を代表する強打者として、豪快な打撃でファンを魅了してほしい。